

卒業生研究活動

梶本 正美

〔口頭発表〕

Emily Dickinson の F-440 番の詩を読む（日本エミリー・ディキンソン学会 第 17 回大会 2001 年 6 月 16 日）

松尾 文子

〔著書（執筆・校閲協力）〕

『英語基本名詞辞典』（研究社 2001 年 5 月）

〔論文〕

間投詞的な機能をもつ接続語（『英語表現研究』第 18 号 英語表現学会 2001 年 6 月 1 日）

but と「しかし、（だ）けど」（『英語青年』No. 9 vol. CXLVII 研究社 2001 年 12 月 1 日）

But and ga, demo（『英米文学研究』第 37 号 梅光学院大学英文学会 2001 年 12 月 25 日）

倉恒 澄子

〔翻訳（共訳）〕

『古代悪魔学——サタンと闘争神話』ニール・フォーサイス著，野呂有子監訳・他（法政大学出版局 2001 年 5 月 30 日）

須賀 昭代

〔翻訳（共訳）〕

ユージーン・オニール 一幕劇『警告』高山吉張・須賀昭代・栢木敦子共訳（『甲南女子大学英文学研究』第 38 号 2002 年 3 月）

木谷 尚代

〔辞書執筆〕

『英語基本名詞辞典』（研究社 2001 年 5 月）

牧野 恵子

〔口頭発表〕

イーサン・ホーリーの二面性と彼の再生（第 25 回日本スタインバック学会シンポジウム「21 世紀に読む『われらが不満の冬』」2001 年 5 月 21 日）

栢木 敦子

〔翻訳（共訳）〕

ユージーン・オニール 一幕劇『警告』高山吉張・須賀昭代・栢木敦子共訳（『甲南女子大学英文学研究』第 38 号 2002 年 3 月）

米川 聖美

〔口頭発表〕

「聖アグネス祭前夜」にみるゴシック美（第 111 回関西コールリッジ学会 2001 年 9 月 16 日）

福本由紀子

〔著書 (共著)〕

『ピーターパン』論・・・子ども部屋を飛び立った子どもたち (『英米児童文学ガイド』日本イギリス児童文学
会編 研究社 2001年4月)

〔口頭発表〕

The Cultural Landscape in the Nursery in the world of *Winnie-the Pooh* (International Conference “National and Cul-
tural Identity in Media” University of Reading, 2001年4月6日)

〔シンポジウム〕

海外児童文学研究の動向 (日本イギリス児童文学会研究大会 2001年10月21日)

鈴木 豊子

〔論 文〕

Queen Gertrude 再考 (『英文学論集 XIX』甲南女子大学大学院英文学研究会 2002年3月)

山東 資子

〔論 文〕

Number in Existentials (『英文学論集 XIX』甲南女子大学大学院英文学研究会 2002年3月)

〔口頭発表〕

Some Aspects of Salinger's Vernacular Language in *The Catcher in the Rye* (The 42nd Summer Seminar of the English
Research Association of Hiroshima, 2001年8月2日)

早川 恵子

〔口頭発表〕

Wordsworth の自然の「畏怖」について——*The Prelude* (1805) を通して—— (甲南女子大学英文学会春季研究
発表会 2001年6月)

ワーズワスの「畏怖の体験」にみる神の啓示 (日本英文学会 中国四国支部 第54回大会 2001年10月)

〔論 文〕

Wordsworth の「畏怖の体験」における罪の意識について (『英文学論集 XIX』甲南女子大学大学院英文学研究
会 2002年3月)

眞下 美和

〔論 文〕

Northanger Abbey にみられるアイロニー——Henry Tilney からみて—— (『英文学論集 XIX』甲南女子大学大学
院英文学研究会 2002年3月)

越川菜穂子

〔論 文〕

Cranford ——結婚をめぐる男性と女性—— (『英文学論集 XIX』甲南女子大学大学院英文学研究会 2002年3
月)

竹内 美佳

〔論 文〕

'Ode on Melancholy' 序章——melancholy, beauty, そして death—— (『英文学論集 XIX』甲南女子大学大学院英
文学研究会 2002年3月)